

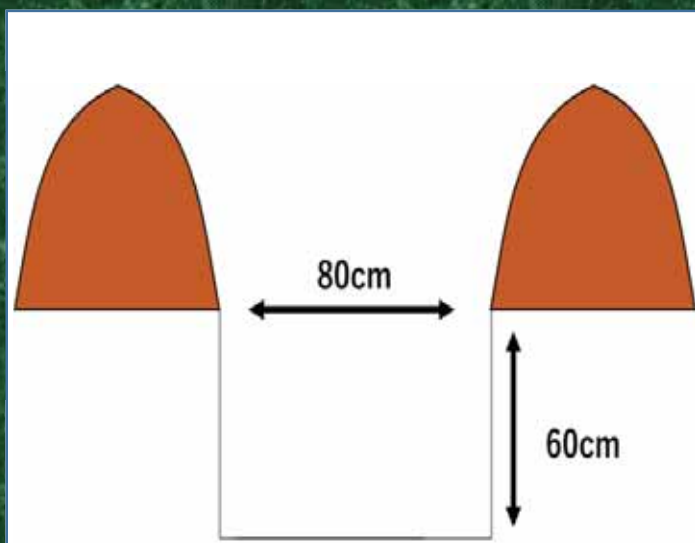
‘あすみ’栽培暦

月	生育ステージ	基本管理作業	施肥
1	花芽分化	成熟期	土壌改良
2		出荷	収穫
3	発芽 春枝伸長	剪定	春肥
4	開花 生理落果	根伸長	
5			花肥
6	夏枝伸長	摘果	夏肥
7			追肥
8	秋枝伸長		初秋肥
9	果実肥大	根伸長	
10		摘果	
11	花芽分化	かん水	秋肥
12	着色	CO2施用	※10a年間施肥量 N-41.2kg P-37.8kg K-33.4kg

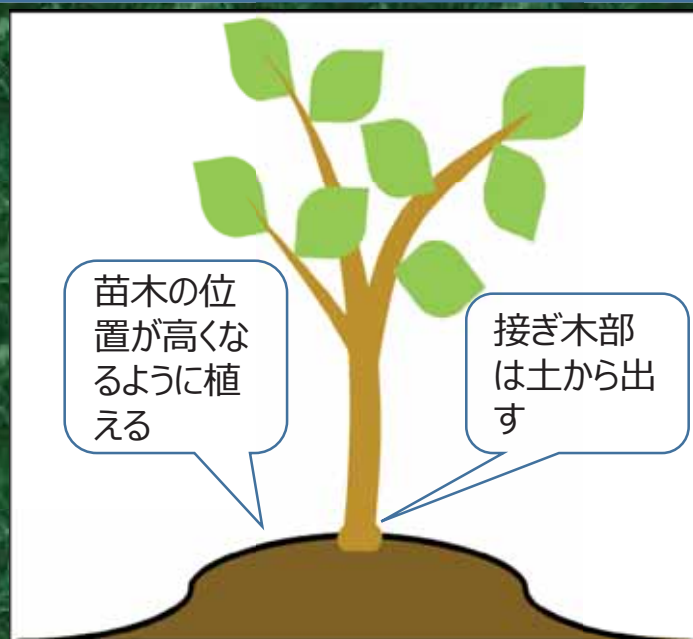
栽培管理（植え付け）

○植穴

縦60cm×横80cm程度の穴を植え付け1カ月前に掘っておきましょう。



○土壌改良資材
植え付け2週間前までに植穴に苦土石灰・ヨウリン・バーク堆肥を掘り上げた土に混ぜて、使用します。



○植え付け

植え付けは3月に行います。根は土を落とし、四方に伸ばして植え付けます。台木との接ぎ木部は土から出して見えるように植え付けましょう。植え付け時に苗木の位置が高く水はけが良くなるよう土を盛りましょう。

栽培管理（防除・灌水）

○防除

かいよう病に対して他の柑橘と比べて弱い傾向があります。かいよう病に弱いことととげによる傷ができやすいことから風雨の被害が少ない施設栽培を推奨します。その他の病虫害については、一般の柑橘類と同様の防除が必要となります。



○水分管理

一年を通して灌水が必要です。3月から7月にかけては、日量 3 t / 反の灌水を約4日間隔で行います。8月から10月にかけては、裂果を防ぐため灌水量を減らします。日量 1 t / 反を4日間隔で行ってください。



栽培管理（防除暦）

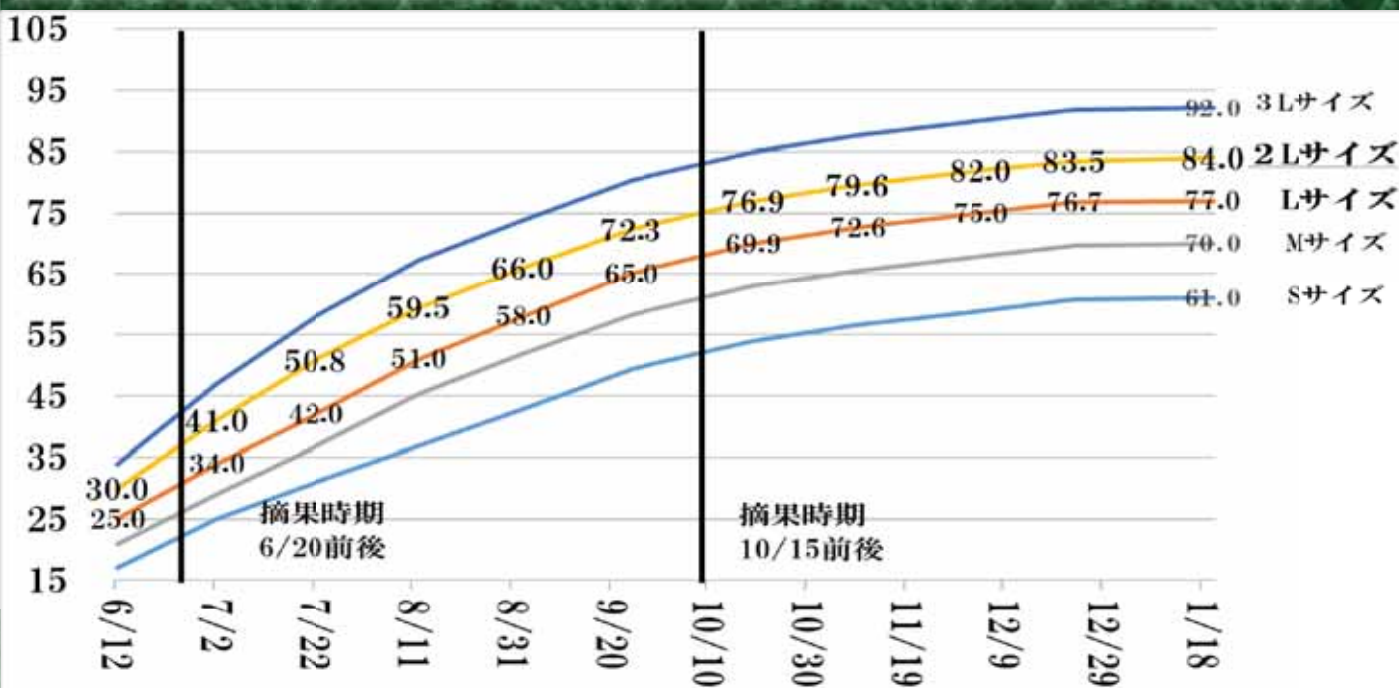
使用時期	対象病害虫	備考
3月上旬 (収穫後)	ミカンハダニ	収穫時ハダニを確認した園地では散布を行う。
4月下旬 (満開初期)	灰色かび病 ミカンサビダニ 訪花害虫 ミカンハモグリガ	
5月上旬 (満開中期)	そうか病 灰色かび病 訪花害虫 チャノキイロアザミウマ	
6月上旬	黒点病 アゲハ類 アザミウマ類 ミカンハモグリガ ハマキムシ類	ハダニの発生を確認した場合は、ダニ剤もしくはダニ剤に準ずるものを散布する。
6月下旬	黒点病 カイガラムシ類	
7月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ チャノホコリダニ	天ビニール解放
8月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ	
9月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ カメムシ ミカンハダニ	
9月下旬	アザミウマ類	
10月上旬	黒点病 アザミウマ類	
11月上旬	アザミウマ類	天ビニールを被覆
11月以降	褐色腐敗病 貯蔵病害 ハダニ類 その他病害虫	・右の病害虫が発生した場合は、適宜防除を行ってください。

使用薬剤については、地域の普及センター
およびJAにご相談ください。

栽培管理（摘果・剪定）

○摘果

基本的には、10月中旬ごろにサイズ摘果を行います。着果が多い場合は、6月～7月にスソ、フトコロの果実を摘果しておきましょう。10月中旬の摘果では、サイズを意識して、70～80葉に対して1果を目安に摘果を行いましょう。サイズは、収穫時に80mm以上となるよう74～77mm以下のものを摘果し、L～2Lサイズの果実にそろえましょう。



ハウスあすみ肥大推移と摘果基準

○剪定

収穫後すぐ（2月下旬）に剪定を行います。強めの剪定は避け、混んだ部分の並行枝や交差枝、逆行枝などを間引きます。前年の結果枝を間引き、新芽を出すことで次年度の結果枝を確保します。若木については、強く伸びた徒長枝にも着果するので、枝吊りを行い、結果枝を確保してください。全体として、空間を作ることを意識して剪定を行います。

栽培管理（施肥）

○施肥

3月（春肥）、5月（花肥）、6月（夏肥）、7月（追肥）、8月（初秋肥）、11月（秋肥）に施肥を行います。
年間施用窒素量 40 kgを目安にします。

施肥時期	N	P	K	施肥例
全量	41.2 kg	37.8 kg	33.4 kg	
1月	—			土壌改良資材 苦土石灰、堆肥
3月	7 kg	6 kg	5 Kg	春肥（7-6-5-1） 100kg/10a
5月	3 Kg	3 kg	2 kg	花肥（15-15-10） 20kg/10a
6月	9.6 Kg	9.6 kg	9.6 kg	夏肥（8-8-8） 120kg/10a
7月	7 kg	6 kg	5 Kg	追肥（7-6-5-1） 120kg/10a
8月	8.4 Kg	7.2 kg	6 kg	初秋肥（7-6-5-1） 120kg/10a
11月	4.8 kg	4.8 kg	4.8 kg	秋肥（8-8-8） 60kg/10a